

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	あみぶらす3		公表日		令和8年3月20日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		・定員と活動内容に合わせたスペースが確保できている。 ・空間が大きくて良いが区切れるとなおのこと良い。	パニック対応や勉強用の個室など視界と音が遮断できるスペースを設けられないか検討をする。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		・子供の数及び、状態を考慮した配置数にしています。	子供2人に対して、職員1人が担当するような形を基本としている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	2	・階段を登る必要があるが、子供たちが問題なく日々の生活ができています。	階段を上る必要があるが、むしろトレーニングの一環として活用できている。支援室に個室がないため、パニック対応等に苦慮する場合がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		・毎日清掃を行い、加湿も行っています。 ・清潔であること、安全であることを第一に考え、清潔な環境の維持、空間づくりに努めています。	窓のサッシ、階段の手すり周り、壁・天井の角など普段見落としがちな所がある。5Sを徹底する意識を持つ。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		・個別で話し合いができるスペースがあります。 ・運動する時などに使用することを認めている部屋や場所があります。	キッチンや事務室など本来子供に立ち入らせたくない場所を使用せざるを得ない場面もある。支援室内に個室を設けることができるよう検討する。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		・毎日のミーティングで職員全員がPDCAの意識を持つようにしています。	ミーティングでテーマを持って話し合っているが、今一歩踏み込んだ議論が必要。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8			年に一度アンケートを実施し、その内容を職員間で話し合って改善策を講じている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・ミーティングにて振り返りと意見交換を行っています。	場を設けてはいるが、発言のしやすい雰囲気づくりは必要。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	2		第三者機関による外部評価は受けていません。余力がないためすぐに受けることはできませんが、今後の課題としたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		・定期的に研修の案内があり、希望者は参加できる体制になっています。	法定研修は原則社内で企画、実施しています。他の研修として、外部研修の開催案内を共有し、参加費用の補助や出勤扱いとしている。

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	・一人一人の子供に合った支援プログラムの作成、公表されています。	子ども達の年齢が上がってきているため、レベルに合った内容の見直しが必要な時期に来ている。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	・アセスメントの見直し、追加を日々行っています。	アセスメントは日々の様子から項目追加、半年に一度毎日の記録から課題の抽出を行っている。それに基づいて個別支援計画の作成を行っている。事務負担の軽減が課題。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	・毎日のミーティングで子供の様子、状況の共通理解の元にサービス計画を作成している。	作成後の支援内容の継続した理解に課題がある。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	・ミーティングやHUGにて共有されています。 ・サービス計画はいつでも確認できるようになっており、職員間で共有できるようになっています。	システムを使用し共有はいつでもできるようになっている。 指導員個々が内容を覚え、支援現場で即座に対応できるようにしていくために、どうしたらよいか検討が必要。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	・ツールを用いたフォーマルなアセスメントの確認が出来ています。	アセスメントは日々の様子から項目追加、半年に一度毎日の記録から課題の抽出を行っている。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のならい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	・本人の意思を尊重し、意思決定の他、自分の力で生活できるようにする狙いから支援内容を設定しています。	家族支援、移行支援、地域支援・地域連携に関しては、なかなか手が回らないのが実情です。 業務効率化を図り、本人の周辺との連携強化に向けた時間を生み出すことが課題です。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	・午前中に意見交換してフラッシュアップしています。 ・立案及び実施もチームで行っています。	パート社員の勤務形態が、サービス提供時間と重なるため、ショートミーティングでの打ち合わせ程度に終始し、企画・立案まで参画できていません。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	・月毎に変更しています。 ・職員間の意見、子供や保護者の意見や感想を聞きながら固定しないよう努めています。	曜日ごとに五領域を設定しています。 五領域に合わせた大テーマ（スポーツ、作業訓練等）を設定したうえで、テーマに合った具体的な活動内容を1か月単位で設定しています。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	・個別活動、集団活動のバランスを考えサービス計画を作成しています。	個別活動が中心の専門支援活動、集団活動が中心の通常の活動を組み合わせています。 専門支援活動は実施のための法的なルールに従うと小集団活動になってしまい、集団活動との差別化が出来なくなることが課題です。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	・毎日ミーティングしており、共有や連携を図っていますが、休日や長期休暇は朝からの利用になる為、難しい場合があります。	休日には全体でのミーティング時間を取ることが難しい。特に夏休み中は職員の体力も限界で、無理な時間を割くことが出来ない。 複数の小グループに分かれてしまった場合、チームで支援することが困難な場合もある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	・送迎後もしくは翌日の午前中に行っています。 ・毎日のミーティングにて共有しています。	支援終了後は、帰りの送迎業務、育児中の短社員やパートさんの退勤などで全員が揃うことがないため翌日に実施するようにしている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	・HUGにて記録を記載、保護者にも共有し、支援の検証、改善に繋がっています。 ・支援の内容、児童の様子を記録し、今後の活動に反映させています。	支援の記録はデータ保存し、必要に応じてAI分析により過去記録から変化の様子を辿れるように工夫している。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		半年に一度モニタリングを実施し、個別支援計画の見直しに反映している。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8		地域交流の機会は提供しているものの、子ども達の特性上他者と関わる場面はほほない。 近日、初めて老人ホーム訪問の企画をしている。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	・子供が自己選択できるような、日々の雰囲気づくりに努めています。 ・自分のことは自分で行うことを徹底して、ルールの中から自己選択できるようにしています。	子どもたちの自己選択、自己決定を認めすぎると無法地帯となってしまうため、一定のルールの下、選択、決定をしてもらう必要がある。 バランスをいかに取るか、指導員間の平準化に課題がある。

関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8			児発管が担当している。他職員の参加もしていきたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1		業務過多の影響により、ほとんどできていない。家庭支援を充実させた後に取り組みたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		・送迎時に学校の先生と情報共有を行い、学校での様子、出来事などを職員間で共有するよう努めています。	学校により、個人情報だからと情報提供をしてもらえないケースもある。学校側の法の理解も必要だが、各法律の整合性、忙しすぎて法的に優先順位の低い業務が後回しにされやすい現状の打破（法改正）等が背景として必要に感じる。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8			業務過多の影響により、ほとんどできていない。家庭支援を充実させた後に取り組みきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8			現在該当する児童がいません。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	1		現状はできていません。活用していきたいと思います。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	1	・長期休暇などで児童館を利用させてもらう機会を設けている。	プログラムに入れ、機会の提供は行っているが、実際に地域のこどもたちとの活動になっているかは実効性が低い。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8	0		業務過多の影響により、ほとんどできていない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	1	・送迎時に保護者様とお話をさせてもらい、毎日のミーティングにて職員間で共有することにより、共通理解を持つよう努めています。	行政回答を待つ間に生じる判断の迷いを解消するため、内部研修を充実させ、AIも活用して専門性を高める。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	1		指導力の差を解消するため、ICTを活用した標準マニュアルの整備と、段階的な育成プログラムを強化する。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			膨大な業務を整理し、誰が担当しても正確に遂行できるようAIで業務手順を最適化したマニュアルを構築する。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		・HUGにて支援の様子を共有し、送迎時に保護者様とのコミュニケーションを密に行っています。	職員の残業を抑制し、余裕を持った心身で療育に専念できるよう、DXによる抜本的な働き方改革を継続する。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8			職員の心身の健康を守るため、ICTを活用した体調管理や相談しやすい職場環境の整備を優先的に進める。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		・相談しやすいよう、日々のコミュニケーションを心掛け、機会を設けて助言や支援を行っています。	事務負担軽減により生まれた時間を地域資源の開拓に充て、地域に根ざした多様な活動機会を創出する。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	4	・保護者同士の交流はほとんどありません。	多忙な中でも安全にボランティアを受け入れられるよう、受け入れ手順の簡素化と標準化をAIで進める。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		・速やかに対応できるよう心掛けています。	事業所の取り組みを積極的に発信し、地域や保護者との相互理解を深めるための広報のデジタル化を強化する。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		・Instagramにて発信しています。 ・行事や日々の活動内容がわかるような発信を心掛けています。	深夜に及ぶ事務負担を軽減するため、会計・事務手続きの自動化を促進し、健全かつ透明な運営を維持する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			事故発生時の状況を正確に記録・分析し、全スタッフで対策を共有するためのデジタルツールの活用を深める。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			苦情内容をデジタル化して蓄積し、再発防止策を組織全体で迅速に共有・実行できる体制を維持する。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	3	・地域住民との交流はほとんどありません。 ・施設を利用しているダンススクールのお子さんと保護者の方を行事へ招待する機会を設けています。	送迎業務における安全確保を最優先し、車両管理のデジタル化等でヒューマンエラーを防ぐ仕組みを導入する。

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	1		デジタル化に伴う情報漏洩リスクを再認識し、セキュアなクラウド環境での厳格なデータ管理を徹底する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			ICT導入で捻出した時間を療育の質向上へ再投資し、児童と保護者双方の満足度を継続的に高めていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		・児童の状況を把握して、共有するように努めています。ミーティングでも確認しています。	事務負担を減らし、保護者が抱える員の課題に対し積極的にアプローチできる相談支援体制を再構築する。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		・食物アレルギー、他アレルギーの有無を毎日ミーティングにて確認しています。	自己評価に加え、外部の視点を取り入れることで、事務効率化と支援の質向上の両立を客観的に検証する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			行政の回答遅延に対し、論理的な照会を継続的に行うことで、不透明な基準の明確化を粘り強く求める。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			児童の意思決定を尊重するため、事務作業を減らし一人ひとりと向き合う対話の時間を優先的に確保する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		・ミーティングにて共有しています。 ・職員間の申し送りを必ず行い、再発防止の意識を高めています。	法定の保存期間を遵守しつつ、AIでの検索性を高めることで、過去の事例を即座に支援に活かせるようにする。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8			ワークライフバランスを改善して職員の離職を防ぎ、安定した指導力を持つスタッフを長期的に育成する。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8			本人の希望を汲み取る支援スキルの向上を図り、より納得感のあるサービス提供を目指して研修を実施する。